

「攻めのIT経営」実践セミナー

【開催趣旨】

四国経済産業局と関係機関では、経営戦略としてのIT活用の必要性和成功に導くための原則について、「攻めのIT経営」の実践事例等を通じて理解いただくことで、今後の攻めのIT経営の実践の参考にしていただくことを目的として、「攻めのIT経営実践セミナー」を開催します。

第1部では、(株)にぎわい研究所の村上知也氏から、IT、IoT等の導入を成功に導くための原則である事前準備の重要性について、第2部では、こうした原則に基づいてITを活用し成果を挙げた「攻めのIT経営中小企業百選2017」選定の四国内の2社の取り組みについてご講演いただきます。第3部では、地域企業へのIT、IoT等の導入支援を行うITコーディネータ制度と具体的な支援事例についてご紹介いただきます。

【日時】平成29年11月20日(月)13:30～16:20

【会場】高松サンポート合同庁舎アイホール
(〒760-0019 香川県高松市サンポート3-33 高松サンポート合同庁舎北館低層棟2階)

【参加費】無料

【定員】80名(先着順)

【お申込み】FAX、E-mail(締切:11月15日(水))

【プログラム】

- 第1部:「IoTやAIで生産性は向上するか? 今後のIT活用のポイント」
株式会社にぎわい研究所 代表取締役
中小企業基盤整備機構 販路開拓支援アドバイザー 村上 知也 氏
- 第2部:四国地域の事例紹介
「お客さま・従業員・社会への提供価値向上に寄与するITシステムの構築と活用」
株式会社北四国グラビア印刷 代表取締役社長 奥田 拓己 氏
管理部 部長 木下 和昭 氏
- 第3部:「業務改革の実現」-ITコーディネータによる企業支援
四国ITC協議会 会長
ITコーディネータ協会 理事 前田 尚次 氏

【問い合わせ先】

四国経済産業局 地域経済部 地域経済課 情報政策室長 安藤
担当者:矢野・山本
TEL:087-811-8513 FAX:087-811-8554

【参加お申込み、プログラム等の詳細はこちらから】

攻めのIT経営 高松

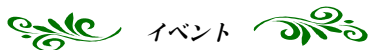
検索 CLICK!!

http://www.shikoku.meti.go.jp/soshiki/skh_b1/3_event/171020/171020.html

AIST SHIKOKU NEWS

発行：国立研究開発法人産業技術総合研究所四国センター <http://www.aist.go.jp/shikoku/>

2017年11月号
2017.11.10
NO.156-2



イベント

ヘルスケア・イノベーション・フォーラム 第11回総会・第29回事例研究部会・懇親会

【日 時】平成29年11月24日(金) 13:30～17:30

【会 場】高松サンポート合同庁舎南館101 会議室(〒760-0019 香川県高松市サンポート3-33)

【お申込み】FAX、E-mail(締切:11月15日(水))

【プログラム】

○第1部 第11回総会 13:00～13:45

○第2部 第29回事例研究部会

- ・「ロンドン・香港の診療所でのK-MIX 参加について」(仮)
メディオンリンク株式会社 代表取締役 寒川 誠仁 氏
ロンドン医療センター 医院長 伊原 鉄二郎 氏
- ・「K-MIX+と多目的サーバの機能および今後の展開について」(仮)
香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏 氏
- ・「JICA 課題別研修 妊産婦の健康改善(母子保健のための遠隔医療を含む)(C)についてのご報告」(仮)
香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏 氏
- ・「JICA 草の根支援事業がタイ首相府、首相直屬機関による「Best Public Service Award 2017」を受賞、
プチCTG の進捗状況および南アフリカ訪問報告」(仮)
メロディ・インターナショナル株式会社 CEO 尾形 優子 氏
- ・「小豆島での看取り、見守りのお話し」(仮)
香川大学医学部 地域医療再生医学講座 客員教授
小豆島中央病院循環器科 岩藤 泰慶 氏
- ・「遠隔医療におけるドローンの活用」(仮)
株式会社かもめや 代表取締役 CEO 小野 正人 氏
- ・「香川における危機管理体制の状況と展望」(仮)
香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長
危機管理先端教育研究センター長 白木 渡 氏
- ・「2 眼顕微鏡カメラ映像高画質リアルタイム3D 表示Heads-up Surgery 等 最新3D 技術に関して」
FA システムエンジニアリング株式会社 代表取締役 中村 康則 氏
- ・「介護現場での気づき暗黙知を集める構造化知識データベース」(仮)
産総研人工知能研究センター サービスインテリジェンス研究チーム長 西村 拓一

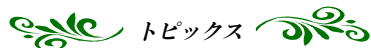
○懇親会 18:00～

【参加お申込み、プログラム等の詳細はこちらから】

HCIF

検索 CLICK!!

<http://healthcare-innovation-forum.jp/>



産総研の最近の主な研究成果 (平成29年10月のプレス発表より)

<発表・掲載日：2017/10/12>

原料の反応性を制御して多様なメソポーラス材料を合成 — 細孔表面の性質を変えたメソスケールの化学反応場として期待 —

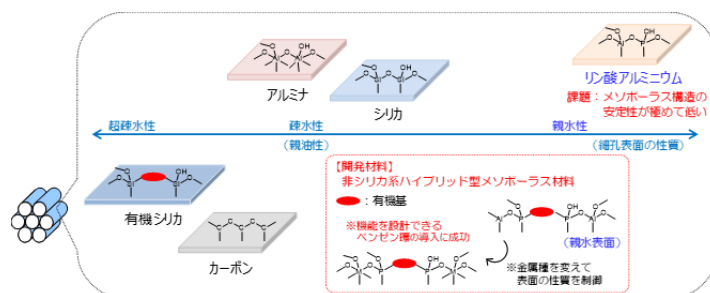
【ポイント】

- ・有機架橋ホスホン酸化合物の反応性を制御し、多様なハイブリッド型メソポーラス材料を合成
- ・ベンゼン環を含み、親水性の細孔表面をもつメソポーラス材料を初めて実現
- ・これまでの疎水性のメソポーラス材料と異なるメソスケールの高機能反応場の開発へ

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171012/pr20171012.html

(無機機能材料研究部門)



<発表・掲載日：2017/10/13>

グラフェン-メソポーラスシリカ複合体の細孔の制御に成功 — 垂直配向した細孔の深さや孔径の制御が可能に —

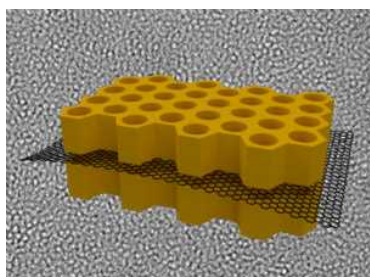
【ポイント】

- ・グラフェンの両側を、細孔を制御したメソポーラスシリカで挟んだ複合体の合成技術
- ・グラフェン表面に対してシリカ中の細孔が垂直に配向し、細孔の深さ、孔径制御が可能に
- ・分子ふるい型センシング、ドラッグデリバリーシステムなどへの応用に期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171013/pr20171013.html

(環境管理研究部門)



<前ページから>

<発表・掲載日：2017/10/18>

地震発生周期解明の手掛かりとなる地球化学プロセスの計算モデル構築 —石英脈の形成が地震の発生周期に関係している可能性を提唱—

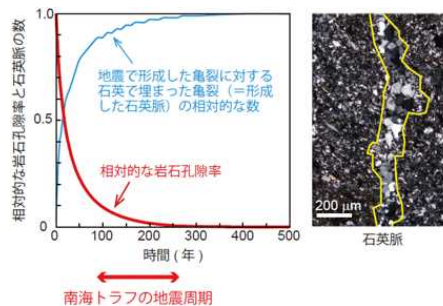
【ポイント】

- ・地下の水に溶けたシリカが岩石亀裂内に石英として析出する速度に関する新しい計算モデル
- ・モデルから算出した巨大分岐断層周辺での石英脈形成時間が、地震の繰り返し周期と一致
- ・プレート境界での地震発生周期の予測や、地熱エネルギーの持続的利用への貢献に期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171018/pr20171018.html

(再生可能エネルギー研究センター、地圏資源環境研究部門、活断層・火山研究部門)



<発表・掲載日：2017/10/23>

不均一ながん細胞群の形態を指標として分離 —新たながん検査法の開発へ期待—

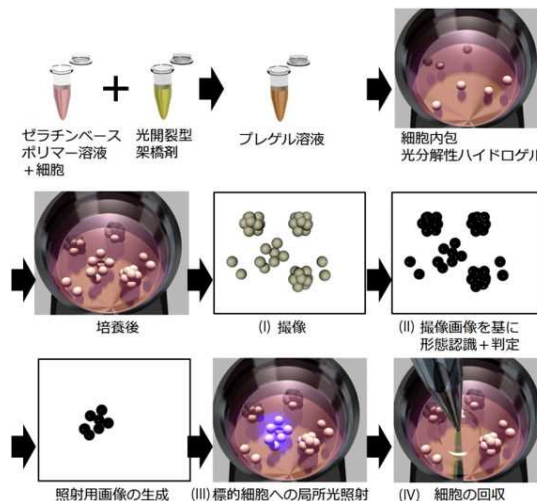
【ポイント】

- ・マウス乳がん由来細胞4T1Eを、ハイドロゲルに包埋した三次元培養下での形態を指標として複数のサブポピュレーションに分離したところ、形態ごとに異なる性質を示すサブポピュレーションが得られた
- ・得られたサブポピュレーションが異なる薬剤感受性を示すことを確認

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/new_research/2017/nr20171023/nr20171023.html

(創薬基盤研究部門)



<次ページへ>

<前ページから>

<発表・掲載日：2017/10/23>

ホルムアルデヒドの発生を繰り返し検知できる小型センサーを開発 —シックハウス症候群予防に向けたホルムアルデヒド常時監視システムの実現に期待—

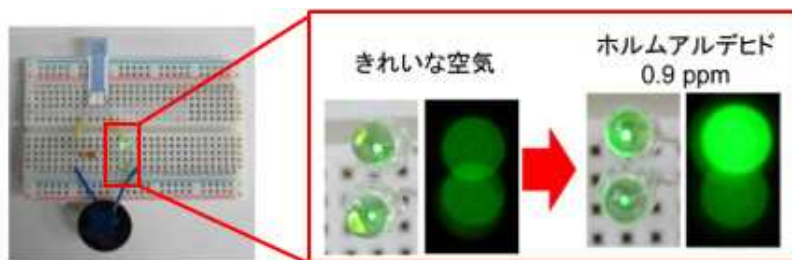
【ポイント】

- ・カーボンナノチューブを使って、ホルムアルデヒドを繰り返し検知できるセンサー材料を開発
- ・開発したセンサー材料とLEDを組み合わせて、ホルムアルデヒドの発生を常時監視する小型装置を試作し、0.9ppmのホルムアルデヒド濃度を検知できることを確認
- ・スマートフォンなどへ容易に組み込めるため、ホルムアルデヒドガスの発生を遠隔からリアルタイムで検知するなど安全・安心な社会の構築に貢献できるものと期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171023/pr20171023.html

(ナノ材料研究部門)



<発表・掲載日：2017/10/24>

質量の単位「キログラム」の新たな基準となるプランク定数の決定に貢献 —世界最高レベルの精度でプランク定数を測定—

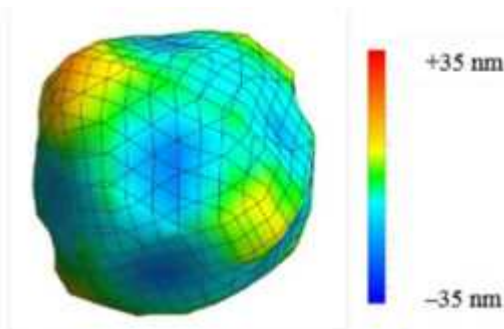
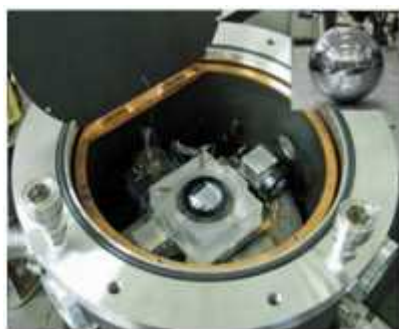
【ポイント】

- ・国際キログラム原器の長期的な質量安定性を上回る精度でプランク定数を測定
- ・科学技術データ委員会による、キログラムの新たな定義に用いられるプランク定数の決定に貢献
- ・およそ130年ぶりのキログラムの定義改定に貢献する歴史的な成果

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171024/pr20171024.html

(工学計測標準研究部門、物質計測標準研究部門)



<次ページへ>

<前ページから>

<発表・掲載日：2017/10/25>

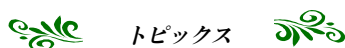
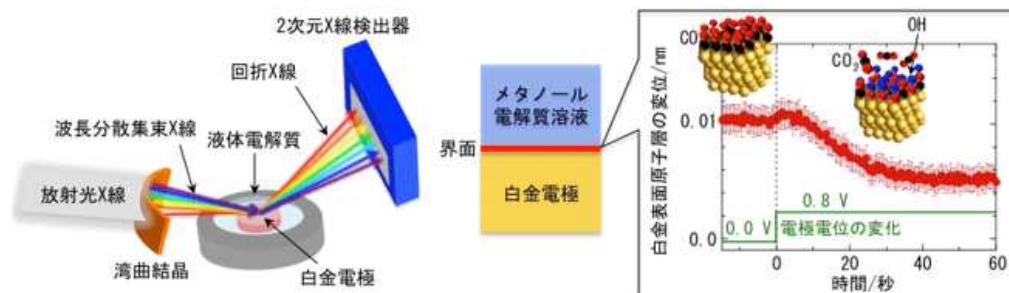
固体と液体の界面での原子の動きをリアルタイムに観察 —燃料電池や蓄電池の性能に関わる固液界面現象の解明に期待—

【ポイント】

- 固体と液体の界面で散乱したX線の強度分布を高速測定する計測技術を開発
- 電気化学反応中の電極表面の原子の動きをリアルタイムに観察可能
- 固液界面での反応機構の解明につながり、燃料電池や蓄電池の性能向上への寄与を期待

【詳細はこちら】

http://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2017/pr20171025/pr20171025.html
(物質計測標準研究部門)



トピックス

「工業標準化事業表彰（経済産業大臣表彰）」を 田尾 博明（四国センター所長）が受賞しました

平成29年10月20日に経済産業省より本年度工業標準化事業表彰の受賞者が発表され、「工業標準化事業表彰（経済産業大臣表彰）」を、弊センター所長の田尾博明が受賞しました。受賞理由は下記のとおりです。

工場排水試験方法等の環境測定JIS及び分析化学用語等の分析化学関連JISの制定・改正を委員長等として長年主導。また、ISO/TC146（大気の水質）及びTC147（水質）のコンビナーとして国際標準化を推進するとともに、TC147国内審議委員会委員長として国内意見を集約し、分析技術の国際的普及に貢献。これらの活動により、環境保全・循環型社会形成に大きな役割を果たし、環境計測産業の国際的産業競争力強化に貢献。



表彰状